

浜岡原子力発電所周辺の環境放射線測定結果について(続報)

2011年3月23日

当社は、通常、浜岡原子力発電所の敷地境界付近での環境放射線量の測定として、モニタリングポストにて連続監視をおこなっています。また、2011年3月14日より以下の測定箇所にて環境の放射エネルギーの監視として、空気中のちりやほこり等のサンプリングをおこなっています。

本日、モニタリングポストの指示値および採取した試料等を分析した結果について、お知らせします。なお、当面の間は営業日に1日1回の頻度で以下の測定データ等をお知らせします。

1 浜岡原子力発電所敷地境界付近のモニタリングポスト指示値

2011年3月23日15時現在のモニタリングポスト(No.1～No.7)の指示値は、79～84ナノグレイ^{※1}/時であり、自然放射線による変動範囲で有意な変動はありません。

なお、当社ホームページでは、モニタリングポストの指示値(過去2日間および30日間)を閲覧可能です。(<http://www.chuden.co.jp/hamaokastate1/RealMonitorPost.html>)

2 環境放射線量の測定データ

測定箇所 採取 期間 対象核種 ^{※2}	佐倉三区	桜ヶ池公民館
	測定中	3月18日11時00分 ～3月23日9時30分
マンガン 54	—	検出されず
鉄 59	—	検出されず
コバルト 60	—	検出されず
ジルコニウム 95	—	検出されず
ニオブ 95	—	検出されず
ヨウ素 131	—	1.3
セシウム 134	—	0.032
セシウム 137	—	0.040
セリウム 144	—	検出されず

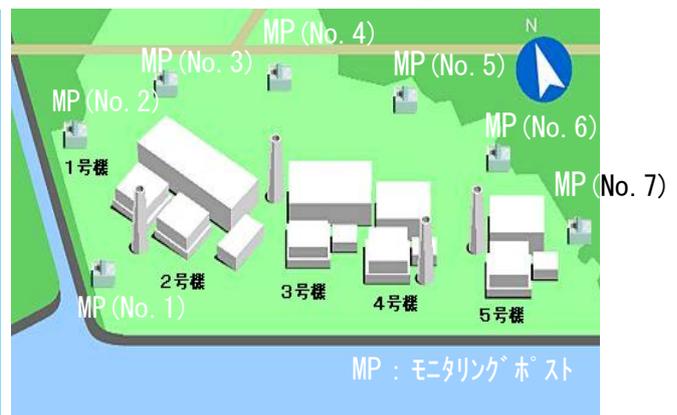
単位: マイクロベクレル^{※3}/立方センチメートル

1年間この放射線を連続して受けた場合の放射線量を評価した結果、約290マイクロシーベルトであり、これは、通常1年間に受ける放射線量(1260マイクロシーベルト^{※4})の4分の1程度となります。

モニタリングステーション位置図



モニタリングポスト位置図



- ※1 グレイとは、放射線が物質に当たったときに、その物質に吸収されたエネルギーの量(吸収線量)を表す単位です。また、「ナノ」とは、単位の前につけて、その大きさを表し易くするための接頭数詞で10億分の1を表します。
- ※2 対象核種は、静岡県環境放射能測定技術会が定める核種分析の評価対象核種のうち、ガンマ線放出核種を示す。
- ※3 ベクレル(Bq)とは、放射能の強さを表す単位であり、1秒間に1つの原子が放射線を出すとき、1Bqの放射性物質があることを意味します。また、「マイクロ」とは、単位の前につけて、その大きさを表し易くするための接頭数詞で100万分の1を表します。
- ※4 被ばく線量1260マイクロシーベルト／年とは、国連科学委員会(UNSCEAR)2000年報告であり、自然放射線から受ける線量(1人あたりの年間線量(世界平均))2400マイクロシーベルトの内訳となります。

以 上